



# 第1章

## 簿記の基礎

～学習内容～

- ・ 簿記の必要性
- ・ 貸借対照表の構造
- ・ 損益計算書の構造
- ・ 仕訳

まずは基礎から♪



# 第1章 簿記の基礎

## 第1節 簿記の必要性

### 1. 簿記とは

簿記とは、お店や企業など、経営主体の活動（取引）を一定のルールに従って帳簿（会計帳簿）<sup>※1</sup>に記録・計算する手続きのことをい、経営主体の「財政状態」<sup>※2</sup>や「経営成績」<sup>※3</sup>を明らかにするために必要とされます。

なお、3級ではお店（個人商店）で行う簿記を学習します。

※1：帳簿（会計帳簿）とは、取引を記録するノートのことです。

※2：財政状態とは、お店がどのように資金を調達し、それをどのように運用しているか、つまり、お店の財産の状況のことをいいます

※3：経営成績とは、お店の活動（取引）による利益の獲得状況のことをいいます。

### 2. 貸借対照表と損益計算書

前述したように、お店の財政状態や経営成績を明らかにするために簿記が必要となりますが、具体的にはお店の財政状態は「貸借対照表」、経営成績は「損益計算書」という表により明らかにされます。

なお、貸借対照表や損益計算書等の書類を「財務諸表」といいます。

## 第2節 貸借対照表の構造

貸借対照表は、「決算日」※4におけるお店の財政状態を明らかにするための表です。

貸借対照表には、現金や建物などお店が保有する財産である「資産」、銀行からの借入金など返済義務のある「負債」、そして資産から負債を差し引いた正味の財産である「純資産」が記載されます。

※4：決算日とは、お店の売上げ、利益などの集計を締める日のことをいい、通常、年1回、12月31日や3月31日に設定されます。

貸借対照表	
資産	負債
	純資産



貸借対照表の左側と右側の  
合計数値は必ず一致するよ。

### キーワードの簡単なイメージ

「資産」：あとで現金を受け取ることができるもの

「負債」：あとで現金を支払わないといけないもの

「純資産」：お店をオープンする時の元手

### 第3節 損益計算書の構造

損益計算書は、「会計期間」※<sup>5</sup>におけるお店の経営成績を明らかにするための表です。

損益計算書には、売上などお店の活動の成果である「収益」、人件費など成果を得る為の犠牲である「費用」、そして両者の差額である「利益」（または「損失」）が記載されます。

※5：会計期間とは、期首（決算日の翌日）から期末（次の決算日）までの期間のことをいいます。

損益計算書			損益計算書	
費用	収益	or	費用	収益
利益				損失

## 第4節 仕訳

### 1. 仕訳とは

日々の取引を帳簿に記入することを「仕訳する」といいます。

簿記の最終目標は財務諸表（貸借対照表や損益計算書等）を作ることですが、日々の取引から最終的な財務諸表を作るまでの流れを簡単なイメージであらわすと以下ようになります。



日々の取引を帳簿に記入（仕訳）するといっても、文章で記入するわけではなく、仕訳は取引を「勘定科目」と「金額」で表現します。例えば、「倉庫を購入し、代金 1,000,000 円は現金で支払った」場合、以下のように表現します。

借方（左側）		貸方（右側）	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
建物	1,000,000	現金	1,000,000

倉庫という資産は『建物』という勘定科目を、現金という資産は『現金』という勘定科目を用いて処理します※<sup>6</sup>。

また、簿記では、上記のように左側と右側に分けて仕訳を行いますが、左側のことを「<sup>かりかた</sup>借方」、右側のことを「<sup>かしかた</sup>貸方」といいます。そして、仕訳を行う場合、借方の金額と貸方の金額は必ず一致します。

※6：一般的に用いられる勘定科目の例を一覧表（ファイル名：「勘定科目一覧表」）にまとめているのでご参照下さい。

## 2. 仕訳のルール

仕訳は1つの取引を複数の事実に分けて、借方と貸方に記入します。


先程の「倉庫を購入し、代金1,000,000円は現金で支払った」例を用いると以下のように考えていきます。

■建物（資産）が増えた

■現金（資産）が減った

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
建物	1,000,000	現金	1,000,000



貸借対照表

資産 (現金・建 物など)	負債  純資産
---------------------	---------------

資産は貸借対照表の借方科目だから、増えたら借方に、減ったら貸方に記入するよ。

どの事実を借方と貸方のどちらに記入するかはルールがあります。

どのようなルールかというと、資産・負債・純資産・収益・費用の各要素が、増えたのであれば貸借対照表または損益計算書と同じ側、減ったのであれば貸借対照表または損益計算書とは逆側に記入するというものです。

前述の例では貸借対照表の借方項目（左側の項目）である「資産」が増減しています。まず、建物（資産）が増えているので、貸借対照表と同じ側、つまり借方に記入します。そして、現金（資産）が減っているので、貸借対照表とは逆側、つまり貸方に記入します。

このように仕訳を行う際には、勘定科目が資産・負債・純資産・収益・費用のどの項目に該当するのかと、各項目が貸借対照表または損益計算書の借方・貸方どちら側に記載されているのかを意識する必要があります。まずは、貸借対照表と損益計算書の構造を覚えるようにしましょう。